

今回のトレーニングドッグ
メロン
ひな
きび

Training
セラピードッグへの道

セラピードッグの
基本トレーニング

やってみよう!
Let's try!!

☆トレーニング☆
ドッグセラピー事業部のセラピー
ドッグとセラピストは、毎週1回、
笠木恵子先生のトレーニングを
受けています。
笠木恵子先生
My Dog Training School 主宰
家庭犬訓練士

今回のテーマ: セラピー練習[訓練係]

目標 利用者様と一緒に楽しめる「得意技」を身につける

アポジット 指示した場所に移動する
わかりやすい目印(☆)をハンドターゲットで指示し、その場所に座ることができたら「ごほうび」をあげます。

ロープをジャンプ
Step1 トレーナーと一緒にジャンプ
Step2 トレーナーの指示でジャンプ

おひざにジャンプ
Step1 利用者様に近づく
Step2 利用者様のおひざにジャンプ

※最初は、目印の上に「ごほうび」を置き、そこをハンドターゲットで指示して近づくことができたらしめつけます。次に目印の上に座ったらほめるようにして、最終的には「ごほうび」を置かなくても目印の上に座れるようにトレーニングします。
☆色や模様などに特徴のある座布団がオススメです。座布団のウラ側には、すべり止めを縫い付けておきましょう。

ORANGE JACKET Dog Therapy

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部 会報誌

Vol. 23 / 夏号
2016年

Contents

- 菱川望氏インタビュー
- コラム:ドッグセラピーの現場から
- 活動報告:ドッグセラピー交流会
- トレーニング:訓練係
- おしらせ:オレンジカフェ

認知症の改善には情動の安定が必要。
何も言わなくても寄り添ってくれる
ドッグは患者様の相談相手になり得る。

—菱川先生はアーユルヴェーダへの関心が高いと伺いました。ドッグセラピー事業部の生長理事長もアーユルヴェーダや鍼治療に取り組み、講演も行なっています。先生がアーユルヴェーダに着目された理由は?

菱川氏 私は約10年間、アーユルヴェーダに取り組んでいます。認知症患者様を対象に、おもにヨガや頭部マッサージの指導、生活指導などを行なっています。数千年前から伝えられてきたアーユルヴェーダの古典書には、健康的に寿命をまっとうするための「一日の過ごし方」や「食事法」などが書かれています。西洋医学で「睡眠が大事」と言われ始めたのは最近ですが、アーユルヴェーダでは何千年も前から「睡眠が大事」「規則正しい生活をするように」と伝えられています。私は認知症も生活習慣病の一つだと思うので、生活指導はとても大事だと考えています。若年性認知症の場合はタイプが違うと思いますが、高齢者が認知症を発症している場合、糖尿病や高血圧などの生活習慣病がベースにあり、周囲の環境が症状に強く影響している場合が多いですね。つまり食生活、生活習慣や生活の環境因子が認知症発症に影響していると考えられますから、できるだけ早期に生活環境から介入して改善することが認知症の抑制につながると考えています。

—菱川先生は認知症患者様に対するアロマセラピーを用いた研究も行われていたそうですね。

菱川氏 認知症患者様には、薬だけではなく、安心して暮らせる環境も大事だと思います。認知症になると嗅覚

interview

岡山大学医歯薬学部(神経内科)
菱川 望 病院講師

日本内科学会
日本神経学会
日本認知症学会
日本認知症予防学会
神経病理学会
日本認知症ケア学会等所属
日本内科総合内科専門医
認知症専門医

は弱くなりますが、「好きな匂い」はあるので、患者様に好きな匂いを選んでいただき、ブレンドしたアロマオイルを少量枕に浸み込ませたり、マッサージを施したりしていました。さらに家庭の中では、介護者がイライラすると患者様もイライラしてしまうので、患者様と介護者様の両者にアロマセラピーを行なっていました。ただしアロマセラピーは保険適用外なので費用はこちら持ちでした。そのほか、鍼治療にも関心があります。

—ドッグセラピーが認知症改善に寄与すると仮定するならば、どのような可能性があるでしょう?

菱川氏 「動物介在療法」について、私は海外の「がんのターミナルケア」事例で見たり聞いたりした程度ですが、好きなドッグの顔を見ることで患者様の情緒が安定するのではないかと考えます。特にドッグは他の動物と違って表情を読み取るから、患者様の情緒を安定させたり、認知症に多く見られる「うつ」や「アパシー(※1)」の状態を前向きにさせたりするためにドッグセラピーが貢献できるのではないかと仮説を立てられると思います。

おしらせ

いきがいライフたかまつ
「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」
ドッグセラピー(集団)をご活用ください! (毎月2回)

ドッグセラピー事業部は、特別養護老人ホーム いきがいライフたかまつ(社会福祉法人義風会)の「オレンジカフェ(認知症カフェ)」で月2回のドッグセラピー(集団)を実施しています。
※岡山市「認知症施策の指針(岡山市版オレンジプラン)」に基づく民間委託事業です。

開催日時 毎月第2・4水曜 13時~15時
喫茶協力 「ひまわりの会」(高松地域ボランティア団体)
メニュー ドリンク(お菓子付き)各100円
場所 いきがいライフたかまつ 1階・地域交流ホール(岡山市北区立田586-1/tel.086-287-8880)
参加申し込み先 介護高齢者ドッグセラピー普及協会
E-mail dog_therapy@ikenaga-group.jp
※見学、ご家族の付き添いも遠慮なくご連絡ください。

(お問い合わせ)

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部
〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp
http://www.therapydog.jp

—新しいことの記憶が難しいと思われていた患者様が
ドッグの名前を覚えたり、ご家族にドッグのことを話したり
されるのです。興味の対象に関しては記憶が強化される
ということでしょうか。

菱川氏 人間は、焦ったり緊張したりすると覚えられない
ことがありますよね。情緒が安定した状態が続くと記憶
力にも影響すると思いますね。

—認知症になると言葉が多少理解できても無気力
状態になる場合が多い。意欲が出ないと身体を動かさ
なくなり、やがて体力も落ちて寝たきりになってしま
います。ドッグセラピーのメリットは、ドッグへの興味
によって患者様の意欲レベルが上がることではないかと
思っています。意思疎通ができず、意欲も低い患者様が、
ドッグセラピーによってリハビリ効果が上がったという
データも出ています。笑顔もたくさん出ます。ある患者
様は、ご自分ではまったく立たなかったのに、ドッグと
会って1か月後には一緒に散歩するようになられました。
ドッグが特別な存在に思えるようになると「この子に何か
してあげたい」とご自分の意思で動き出すんです。

菱川氏 そうですね。意欲に関しては、薬だけで目を見張る
ような結果は期待できませんね。名前を覚えるように
なった、意欲が出るようになったなどはドッグセラピーが
貢献できるところかなと思います。何よりドッグは健気
ですよ。「寄り添う」という気持ちや能力は人間以上
なのではないですか。介護者様も犬好きだと会話も盛り上
がり、余計にいいでしょうね。私は数年前までゴールデン・
レトリバーを自宅で飼っていました。16歳まで生きたん
ですよ。私にとってドッグは相談相手でしたから「ドッグ
で癒される」気持ちは、よくわかります。そう考えると認知
症患者様にとってもドッグは相談相手になり得ると思
います。何も言わなくても寄り添ってくれるから。

—言葉話を話さないのいいですね。

菱川氏 ただじっとそばにいてくれるのがいい。言葉
がむしろ邪魔です。ドッグは絶対に秘密を漏らさないし
寄り添ってくれる。裏切ることもない。安心して接する
ことができるから、1対1のほうが情動が安定して効果的
だと思います。

—私たちは相性を調べた上で担当のドッグを決めて、
1対1でセラピーを行なっています。このドッグセラピーの
効果の評価方法として、私たちは岡山の「阿部式
BPSDスコア」(BPSD=周辺症状※2)を採用しました。
最終的にはドッグセラピーによって介護負担がどの程度
軽減されるかを示したいのです。適正な評価データを発表
するために、私たちはどんな点に気をつけたいでしょうか。

菱川氏 一般的に使用されている「うつ」や「アパシー」
のスコアは患者さんが本人でつけるもので、認知度が
高度(※3)な患者様の場合は、ご自分で理解できないし、
字も読めない状態ですよ。ですから、採用された阿部式
BPSDスコアは、観察者(介護者、ご家族)がつけるので
良い指標になると思います。

—ドッグの一番の特徴は言葉がいらぬことなので、
言葉を通じない高度の認知症患者様のほうが、効果
は如実に現れます。最初は、ドッグの存在が「かわいい
存在」「気の合う仲間」程度なのですが、次第に「この子
が好き」という「特別な存在」に変わると、表情から行動
まですべて変わってきます。今までは意欲の指標(バイ
タリティインデックス)を用いていましたが、高度認知症
の場合、評価が難しいのです。映像では一連の変化を
残せるのですが。

菱川氏 アパシーの推移を客観的に評価しようと思うと
ADLスコア(ADL=日常生活動作※4)でしょうか。どうして
も大げさに捉えてしまう場合があるので、評価方法として
は難しいですよ。

—独自の指標を作ったほうがいいのでしょうか。

菱川氏 そう思います。例えば「バススコア」という痛みの
スコアを用いて、会話の量や表情変化など、いろんな項目で
評価してもいいかもしれません。

—ドッグと接した患者様の状態が劇的に改善したり、
ご家族の喜び顔を見たり、ご家族から「介護負担がすごく
減った」と言われたりすることも多いです。私たちは介護
負担の軽減こそが介護保険収載への道だと思っています。

菱川氏 要介護が要支援になれば国の医療費負担が少
くなりますから、一つの目安ですよ。客観的な視点での
評価となると第三者評価が重視されますが、高度認知症の
患者様の場合は、介護をしている同一人物が適正に評価
していればよいのではないかと思います。患者様の状態の
推移、「よくなった」「悪くなった」という一連の流れを示す
ことが大事だから、同じ介護者が観察して一般の評価方法
で記録すれば良いのではないのでしょうか。

ありがとうございました。

※1 アパシー…感情や苦悩を失ってしまう、不活発な状態。
※2 BPSD…認知症による周辺症状(行動や心理の症状)
※3 認知症の重症度は「軽度」「中等度」「高度」に分類されています。
※4 ADL…日常生活動作。食事・更衣・移動・排泄・入浴など生活に不可欠な行動。

【訓練係】

対象症例

- 暴言・暴力 ● 介護拒否 ● 意欲低下

期待できる効果

- 発語訓練 ● 持久力/耐久力の増加
- 記憶力低下防止 ● コミュニケーション能力向上
- 問題行動の減少 ● 短期・長期記憶の維持など

実施手順

- 1) セラピストだけで利用者様を訪問。
- 2) 「訓練計画書」を提出。
今日の訓練計画を選んでいただき、承認のサインをいただきます。
- 3) ドッグと一緒に訪問。利用者様にドッグの訓練をお願いします。
ドッグは利用者様の号令に服従。たまに失敗しながら訓練を受けます。

※ドッグに指示を出すことで、次第に自分らしさを取り戻され、
ドッグの名前や、ドッグが好きな行動を覚えたり、前回の訓練の内容を思い出されたりします。

注意点

- ドッグが混乱しないように対象の利用者様(一人)に集中できる環境で行なう。
- ダブルリードで行なう。

ドッグに必要なトレーニングと期待できるリハビリ効果

ドッグに必要なトレーニング	期待できるリハビリ効果	具体的な方法
ホールディングマナー ベッドマナー	肩関節可動域訓練 上肢外転運動 手の回外運動	イスやおひざに乗っているドッグをなでる ボールやお手を投げる 患側に寄り添いドッグをなでる
	手指巧緻動作訓練	手のひらやお皿からごほうびをあげる リボンや花輪などをつける ドッグの着ている服のボタンをしめたりひもを結ぶ
ウォーキングマナー(歩行訓練) ケインウォークマナー(杖歩行訓練)	歩行訓練 移動練習 立位バランス訓練 躯幹の平衡訓練	離れた場所にいるドッグの所まで歩行する (またはドッグとアイコンタクトを取りながら一緒に歩く) 自立位でドッグをなでる つかまりながらドッグをなでる ドッグ用のブラシを使う (イスなどに座って)ドッグを抱く 他者へ手渡しする
ホイールチェアマナー(歩行器歩行)	歩行器、車イス訓練	離れた場所にいるドッグの所まで車イスで自乗する (または歩行器・車イスを使ってドッグと一緒に歩く)
コマンド(号令指示) トリック(得意分野の遊び)	言語、発語訓練 短期・長期記憶	「おすわり」「待て」など号令を出す ドッグの名前を呼ぶ ドッグが好きな行動や名前などを記憶する

※号令指示…だれが号令・指示しても服従できるようにする。
※ケインウォークマナー…ドッグは大きな音に驚かない、突発的なできごとがあっても落ちついていられるようなトレーニングが必要。
※レクリエーション訓練…だれでもレクリエーションが楽しめるようにする。

【活動報告】 第9回 ドッグセラピー交流会

平成28年5月15日(日)13:30~ 会場:老人保健施設「高松アクティブホーム」

ドッグセラピー事業部は「第9回ドッグセラピー交流会」を上記日程で開催。ボラン
ティア経験者や介護職の方々など10名に参加していただきました。

まずドッグたちの福祉や権利に関する私たちの考え方、ドッグセラピーを選んだ
理由、高齢者施設で行なうドッグセラピーの可能性や必要なトレーニング方法など
についてお話ししました。続いてドッグセラピー事業部がドッグトレーニングに採用
している「ほめるトレーニング」の方法やコツを、ゲームや実践を通じて体験して
いただき、ドッグとのコミュニケーションの取り方を学んでいただきました。また「ひな」と
「ゆき」と一緒に「集団セラピー」も体験していただきました。

参加者のみなさんからは「実際に体験して初めて、ほめるタイミングや指示の出し
方、ドッグとの信頼関係の大切さが分かりました」「ドッグとのコミュニケーションの
重要性をすごく感じました」「アイコンタクトの取り方が分かりました」「とてもいい
経験ができました」などの感想をいただきました。



▲プロジェクターを使って
私たちのドッグセラピーに
ついてご紹介。

▲みんなで輪になって
集団セラピーを体験。

▲きびとシャインの
トレーニングを体験。